グローバルスタートアップ支援プログラム「KGAP+」(Keihanna Global Acceleration Program Plus)

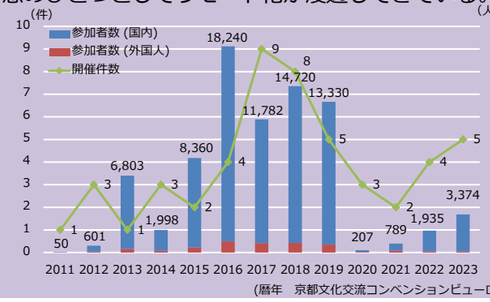
2019年度からATRが実施。国内外の連携機関を通してスタートアップが参加し、3カ月間の活動により協業先を探索（累計参加数23カ国195社、マッチング成立65%）。2024年度は第11・12期に14カ国36社が参加。各期の短期特別プログラムを第11期分は台湾で実施し第12期分は大阪・関西万博で実施（計7カ国11社参加）。また、京都スマートシティエキスポ2024で「KGAP+特別セッション」として、6カ国の連携大学・研究機関等のエグゼクティブを迎えて、先端研究シーズの事業化をテーマにパネルディスカッションを開催。

（ATR 提供）

イノベーション推進　＜人の対流的指標＞

コンベンション開催件数・参加者数

本都市内で開催された国際会議件数及び参加者数。2020年以降、水際措置の強化や緊急事態宣言等により減少。開催形態のひとつとしてリモート化が浸透してきている。

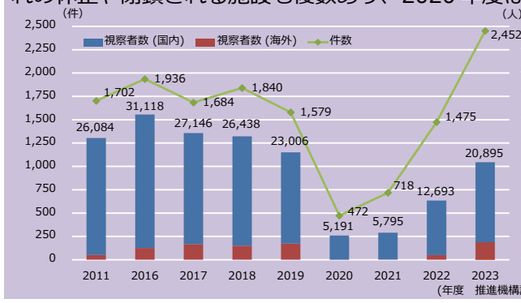


（暦年　京都文化交流コンベンションビューロー調べ）

イノベーション推進　＜人の対流的指標＞

視察件数・視察者数

本都市に立地する主な公的・民間機関、大学が受け入れた視察件数及び視察者数。緊急事態宣言などの影響で、受け入れの休止や閉鎖される施設も複数あり、2020年度は減少。



（年度　推進機構調べ）

SDGｓ関連指標

持続可能な開発目標（SDGｓ）を達成するために示された我国の具体的施策にかかる指標に準じた、本都市内における該当指標。

100万人当たりの研究者

本都市内では、
'24.4.1 現在で 1.42 万人。
<SDGs ターゲット：9.5>

海外との科学技術協力協定

本都市では、
'25.3 末現在で 188 件。
<SDGs ターゲット：17.6>

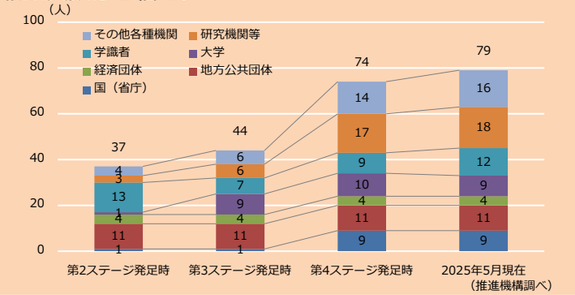
立地適正化計画

本都市 8 市町のうち、
'25.3 末現在で 3 市が作成済。
<SDGs ターゲット：11.3. 11.a>

都市運営

各ステージの推進体制と構成員数

けいはんな学研都市「新たな都市創造会議」は、大学や立地機関等の参画が増加し、セカンドステージ推進会議に比べ構成員数は2倍に。

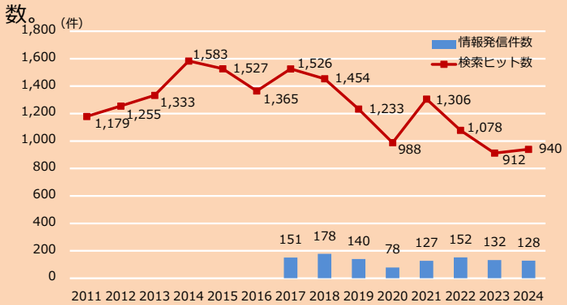


（推進機構調べ）

都市運営

マスコミを通じた情報発信件数・検索ヒット数

本都市に立地する主な公的機関及び大学等がリリースした報道資料件数と、日経テレコンによる新聞記事検索ヒット数。

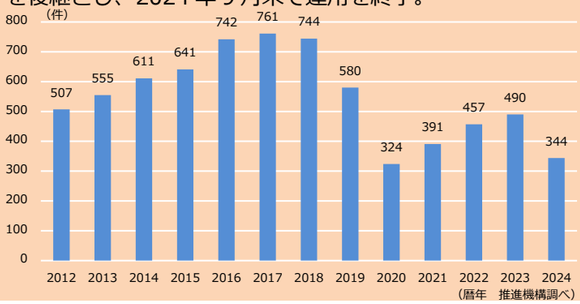


（年度　推進機構調べ）

都市運営

「けいはんなポータル」投稿件数

本都市に関するさまざまな情報を広く発信するニュース投稿型ポータルサイト。「けいはんなイノベーションハブ」を後継とし、2024年9月末で運用を終了。



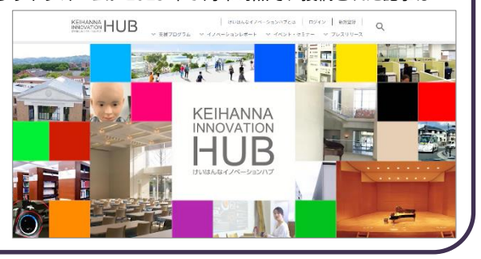
（暦年　推進機構調べ）

けいはんなイノベーションハブ

2024年9月24日、けいはんな学研都市に関する様々な情報を広く発信する「けいはんなイノベーションハブ」Webサイトが始動。

補助金やイベント・セミナーなどの情報を集約、"伝えたい"と"知りたい"のマッチングをはじめとし、けいはんな学研都市の更なる発展を図ることを目的としたプラットフォーム。2025年3月末時点で、投稿された記事は計177件。

下記のQRコードより、アクセスください。



けいはんな学研都市「新たな都市創造プラン」

けいはんな インジケーターマップ 2025

けいはんな万博 2025 シンボルキャラクター「みらるる」

けいはんなインジケーターマップとは

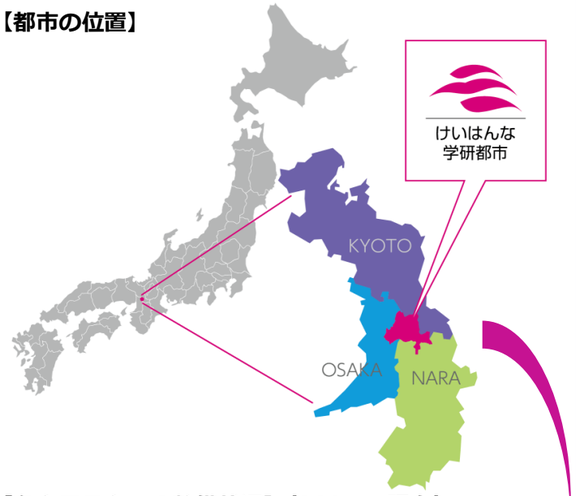
多様なステークホルダーによって推進されている「新たな都市創造プラン」の取組成果を、「けいはんな学研都市」全体として俯瞰的に評価する指標群。

関係する事業主体が成果を共有し、国内外へアピールすることで、都市全体の価値を高めるとともに、取組成果を関係機関それぞれの事業活動の新たな展開に活かしていくための取り組み。

2025年は大阪・関西万博が開催。けいはんな万博やスタートアップなどに係るプラットフォームの取組を推進。さらに万博の成果を社会実装していく『ポスト万博シティ』につなげていきたい。

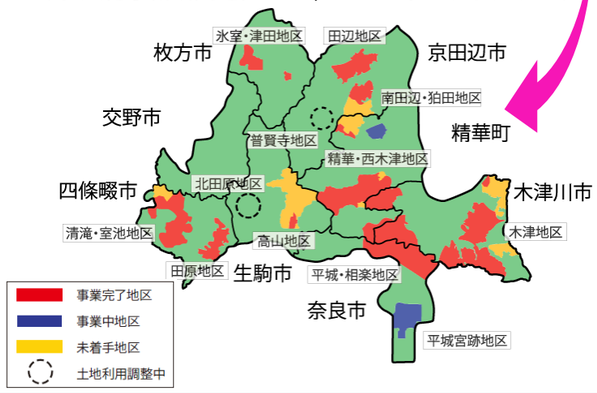
けいはんな学研都市の基礎情報

【都市の位置】



【各クラスターの整備状況】（2025.4 現在）

学研都市全域　15,000ha
内 文化学術研究地区　3,600ha（12 クラスター）

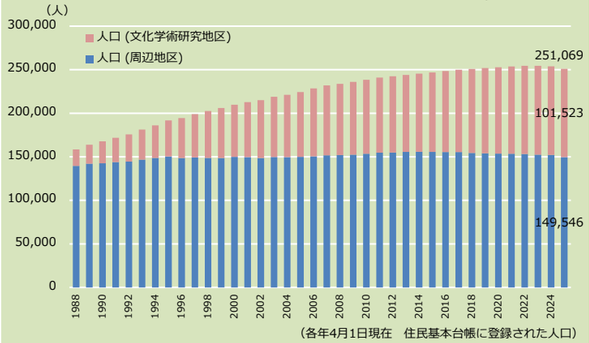


編集・発行 公益財団法人関西文化学術研究都市推進機構（KRI）2025.5

都市形成

人口

本都市内の人口推移。2025年4月現在で251,069人。

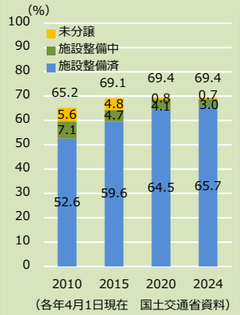


（各年4月1日現在　住民基本台帳に登録された人口）

都市形成

文化学術研究地区（クラスター）の整備率

施設（文化学術研究施設、道路、公園、学校、住宅等）の整備進捗状況。

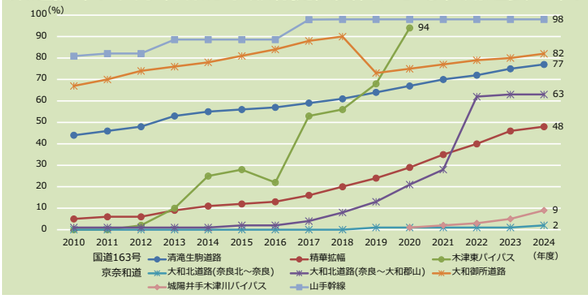


（各年4月1日現在　国土交通省資料）

都市形成

道路整備進捗率

国道163号と京奈和道、城陽井手木津川バイパスは近畿地方整備局ホームページ内の予算執行情報開示等による事業進捗率。山手幹線は京都府提供資料による供用延長の率。



学研高山地区第2工区

12の文化学術研究地区のひとつである高山地区の第2工区（約288ha）のうち、先行して整備をすすめる南エリアにおいて、土地区画整理事業によるまちづくりに向け、2024年12月25日に「学研高山地区南エリア土地区画整理準備組合」が設立。

また同日、南エリアに続くゲートエリアにおいても「学研高山地区ゲートエリアまちづくり協議会」が設立。

第2工区の更なる事業の具体化に向けて取り組みが進んでいる。

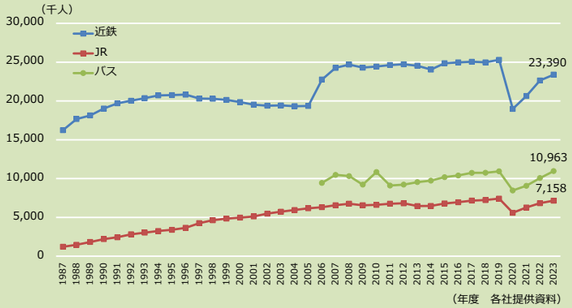
（Google マップより）

都市形成

<人の対流的指標>

公共交通乗車人員

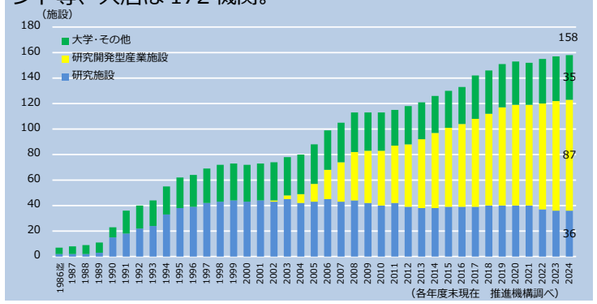
本都市内の年間乗車人員。2023 年度は鉄道約 3,055 万人、路線バス約 1,096 万人。



文化・学術研究の振興

立地施設数

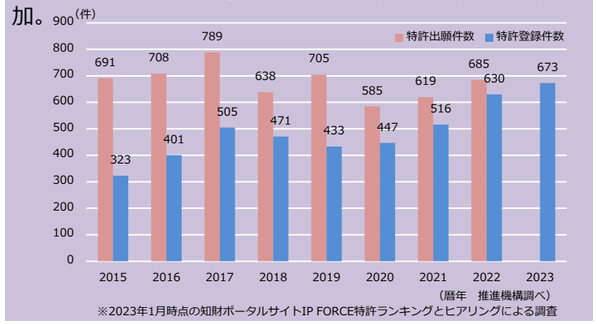
2002 年から研究開発型産業施設の導入により増加。2024 年度末で 158 施設。研究所内ベンチャー企業やテナント等、入居は 172 機関。



イノベーション推進

特許登録件数・出願件数

けいはんな発（公民 68 機関）の特許登録件数及び出願件数。2023 年の特許登録件数は 2015 年に比べ約 2.0 倍に増加。



複数モビリティの分散協調運行の実証

デジタル庁の受託事業「複数モビリティの分散協調運行のための基盤構築に関する実証調査研究」により、(一社)京都スマートシティ推進協議会が 2025 年 2 月から 3 月にかけて実証を行った。

機種の異なる複数モビリティが同一空間で分散協調して運行するための調査・分析を目的としており、2 月 27 日には、ロボットによる配送サービスを想定し、アームを搭載した自律走行ロボットと自動運転車の協調による配送物受け渡しや、屋外から屋内への搬送等を行った。

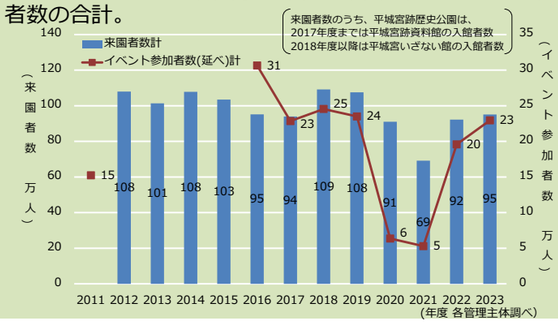
（KRI 撮影）

都市形成

<人の対流的指標>

大規模公園利用者数・イベント参加者数

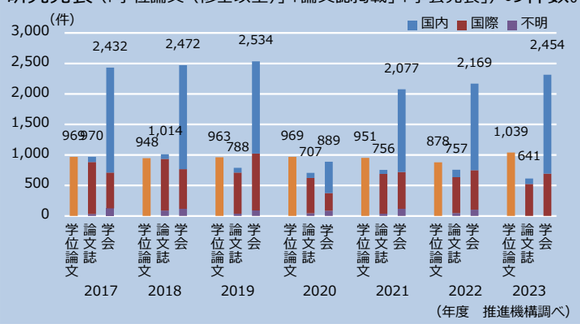
けいはんな記念公園（京都府）、大阪府民の森むろいけ園地、平城宮跡歴史公園（奈良県）の来園者数とイベント参加者数の合計。



文化・学術研究の振興

研究発表数

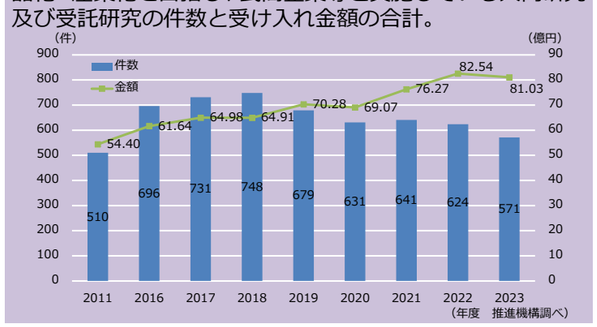
本都市に立地する主な公的研究機関及び大学等による研究発表（「学位論文（修士以上）」「論文誌掲載」「学会発表」）の件数。



イノベーション推進

共同研究開発テーマ

本都市に立地する主な公的研究機関及び大学等が、主に商品化・産業化を目指し、民間企業等と実施している共同研究及び受託研究の件数と受け入れ金額の合計。



イノベーション推進

Club けいはんな・K-PeP 活動状況

Club けいはんなは、ものづくりのための研究開発を支援するため、生活者としての知恵と知識を活かす市民参画による組織。（2016 年設立）

K-PeP は、自動運転等の新技術や新たな交通システムの確立に向けた日本で初めての企業乗合型、住民参加型の公道走行実証実験プラットフォーム。（2018 年運用開始）

Club けいはんな

会員数　3,780 人
（2025 年 3 月末現在）

活動実績（累計）
- ワークショップ 12 件
- 実証実験 13 件
- Web 調査 32 件

K-PeP

参加企業数
（2025 年 3 月末現在） 22 社

実証実験件数（累計） 38 件

「大学･研究機関」共創会議

2024 年 7 月 1 日、大阪府咲州庁舎で「大学・研究機関」共創会議（座長：松本紘 国際高等研究所 所長）が開催され、けいはんな万博 2025 への期待やそれらの成果などをけいはんな学研都市で継承し発展させる「ポスト万博」の取り組み、大学・研究機関・企業の連携強化、スタートアップ企業との連携や、街でのシーズ実装など様々な意見交換が行われた。

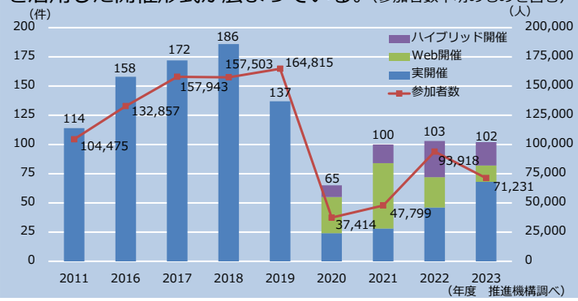
（KRI 撮影）

文化・学術研究の振興

<人の対流的指標>

文化・学術・科学プログラム数

本都市に立地する主な公的機関及び大学等による主催･共催の様々な「知」を楽しむプログラム。2020 年度以降、WEB を活用した開催形式が広まっている。（参加者数不明のものを含む）



イノベーション推進

社会実装を目指した実証事業件数

2016 年度から 8 年間累計 734 件 実施

本都市に立地する主な公的研究機関や大学等において、新たに開発した技術や製品等の社会実装を目指した実証事業の状況。

（自社敷地内で一般住民が参加しない事業は除外）

四條畷市との連携で、健康づくりや介護予防をめざし実施された高齢者見守りアプリ実証実験とスマートフォン使い方教室

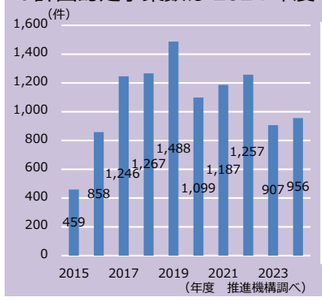
アプリ内キャラクタとのコミュニケーションを通じて見守りを行う

（奈良先端科学技術大学院大学 提供）

イノベーション推進

企業支援活動件数 及び 特区制度計画認定事業数

本都市に立地する各支援機関による技術開発、資金獲得、販路開拓等の企業支援活動件数。国際戦略総合特区での計画認定事業数は 2024 年度末現在で 6 件の実績。



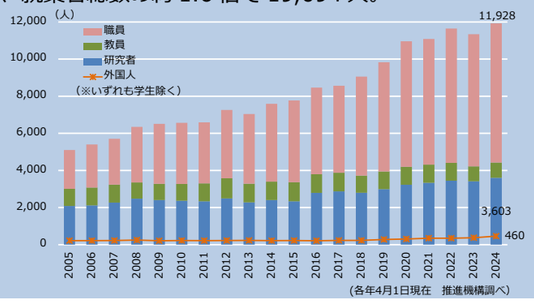
本都市における国際戦略総合特区での計画認定事業数の内訳

① 規制の特別措置	1 件
② 税制支援	4 件
③ 財政支援	1 件
計	6 件

文化・学術研究の振興

就業者（研究者）数・学生数

2024 年は、2005 年に比べ就業者総数が約 2.3 倍、うち外国人数は約 2.1 倍、研究者数は約 1.7 倍の伸び。学生数は、就業者総数の約 1.6 倍で 19,094 人。



けいはんな万博 2025

2025 年 4 月 13 日の開会式を皮切りに「けいはんな万博 2025」が開幕。「未来社会への貢献～次世代への解～」をテーマとして 10 月中旬までの間、けいはんな学研都市を舞台に、多種多様なイベントが開催される。

けいはんな万博 2025 開会式

けいはんな万博 2025 in 大阪･関西万博

各イベントの開催日程や詳細は、左記 QR コードから
けいはんな万博 Web ページで最新情報を確認ください。

KEIHANNA EXPO 2025

（KRI 撮影）

多言語音声翻訳アプリ VoiceTra（ボイストラ）

国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）の音声認識・翻訳・音声合成といった技術により開発された VoiceTra は、旅行時やインバウンド対応などはもちろん、多様性を受け入れお互いを尊重しあう社会の中で「言葉の壁」を崩すアイテムとなる。

2025 年 3 月末時点で、翻訳できる言語は 31 言語。

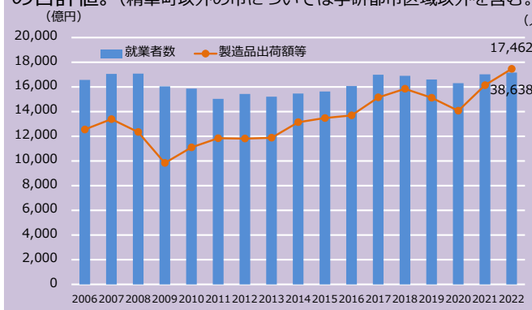
その技術は、2025 年大阪・関西万博専用の自動翻訳アプリ EXPO ホンヤクにも活用されるほか、民間サービスでの活用も広がっており、フィードバックを活かした研究開発によって進化し続けている。

（NICT 提供）

イノベーション推進

製造品出荷額等・就業者数

本都市を構成する各市町の製造品出荷額等及び就業者数の合計値。（精華町以外の市については学研都市区域以外を含む。）



（出荷額は暦年、就業者数は各年で時点が異なる 経済産業省「工業統計調査」他）